かごしま NIE実践校

興味の湧く記事を探す児童たち

大川内小学校（出水市）
「考える」習慣を促す

実践校3年目。記事や写真を題材に、日頃から自分の考えを持つよう促しており、感想文の執筆や意見を交わす活動を導入した。発達段階に配慮した指導に取り組み、最終目標である学力向上にもつなげている。

月1回、20分間のNIEタイムを設け、全学年がワークシートを活用する。低学年は写真を一緒に見てタイトルを考えるなど、新聞への興味を高めることが中心。中学年は関心のある記事を選び、高学年は複数紙の同じ話題を読み比べ、それぞれ感想文を書いた。学年が上がるごとにグラフや図を読み解く力をつけるよう心がけている。

新聞投稿の呼び掛けも熱心だ。三原一樹校長(59)は「採用されるかより、考えて書く楽しさに気付くことを大事にしている」と話す。全国学力テストが好成績だったとし、背景にNIE教育の継続があるとみている。

（種子島時大）

英語で書いた新聞を手に笑顔をみせる生徒

川内中央中学校（薩摩川内市）
英字新聞作りで自信

2年生が今年初めて、薩摩川内市を紹介する英字新聞作りに挑んだ。英語による作文が苦手な生徒は多かったが、新聞という「形」にすることで、自信や達成感につながった。

1人1本の記事を書き、A3判を3～4人で作った。分野は観光、歴史などさまざま。イラストや写真を交え、色とりどりに仕上げた。以前、市内各地を取材して日本語で新聞を作ったことがあり、この時の紙面を参考に執筆した。出来上がった新聞は、英語でプレゼンテーションした。

英語科の豊藏有香教諭(29)は「英語が苦手な生徒も、新聞作りという同じ目的に向かって教え合うことで、生き生きしていた」と手応えを感じた様子。地元の名所を紹介した大迫聡君は「英語も日本語も、読み手に分かりやすく伝わるように表現するのは同じだった」と振り返った。

（五反田和美）